

1. 児童の作品例

①音のつながり（しりとり）を工夫した例

Aさん Bさん

Aさん Bさん

Aさん 2回目は4小節目終わりの音（ミ）から旋律をつくっている。「シンプルな作品」とのこと。

Bさん 1回目はAさんの下行に対して上行。2回目は終わる感じを出すために8小節目の音をドに変化。

②終わる感じを工夫した例

Aさん Bさん

Aさん Bさん

Aさん 隣の音につなげることで音階の響きが出ている。2回目は高い音から始める旋律に変化。

Bさん 終わる感じを出すために、2回目は階段を下りるようにした（順次下行）とのこと。

③提示されたリズム以外の作品例

Aさん Bさん

Aさん Bさん

Aさん 順次進行を用いた五音音階らしい旋律を反復する。音数と動きが少ないBさんとのバランスがよい。

Bさん 提示されたリズムを使わずにつくった。2回目は終わりの音をドに変化させている。

④音高を変化させた例

The image shows two musical staves. The top staff is labeled 'Aさん' and 'Bさん'. A red box highlights the first three measures of A's part, which are: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. B's part starts at the fourth measure with a whole note G4, followed by A4, B4, C5, B4, A4, G4. The bottom staff also shows A's part in a red box for the first three measures: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. B's part starts at the fourth measure with a whole note G4, followed by A4, B4, C5, B4, A4, G4.

Aさん 2回目は1オクターブ音を高くして変化を付けた。二人とも提示されたリズムから変えている。

Bさん 3小節目のミレドが4小節目はミソレミドとなり、旋律にまとまりを出している。

2. 児童の学びの様子

- ・導入として「かえるのがっしょう」をハ長調のヨナ抜きで範奏したものを聴いたところ、「夕やけこやけ」や「大きな栗の木の下で」などの曲を「似ている」と挙げており、音階の生み出す響きを感じ取っている児童が多かった。また、各自のミニキーボードに音階シートを装着したところ、進んで例に挙げた曲を試し弾きしたり、五音音階で弾ける曲を探したりする姿が見られた。
- ・旋律づくりでは、音階シートを使用することで、全員が迷いなく音階の構成音から音を選択することができていた。「もっと長くしてみたい。」「友達とつなげてみたい。」という振り返りをもとに、呼びかけとこたえを用いて二人でつなげるという次の課題を設定した。
- ・二人で旋律をつなぐことができたなら2回繰り返すという条件にしたところ、2回目に変化させるペアが出てきた。聴き合いによって発想を共有することで最終的には8割近いペアが変化のある旋律をつくった。自分たちで8小節の旋律をつくれたことをとても喜び、多くの児童が「またつくってみたい。」という感想をもっていた。

3. 実践を終えて

- ・ハ長調のヨナ抜き音階は、童謡からポップスまで幅広く使われている音階であり、児童にとって親しみやすい音階であった。普段慣れ親しんでいる「ド」が終止音であることも3年生には分かりやすかった。今後、ハ長調の和声進行をもとにした旋律づくりにつなげたり、ジャズのアドリブづくりなどにつなげたりすることができ、高学年・中学校でも取り扱いやすい音階だと感じた。
- ・旋律のリズムは  を提示した。2分音符では音の跳躍がしやすく、8分音符では多様な音の動きが生まれやすくなった。ねらいや実態に即したリズムの提示の重要性を実感した。
- ・ミニキーボードは、階名で歌いながら弾くことができるところが大きなよさであった。今回は「歌うことができる」ということを条件に設定していたので、音があちこちに跳ぶような不自然な旋律は少なかった。また、今回はできなかったが、音色の選択によって表現の幅を広げてみたい。
- ・ペアで旋律をつなげて一つの旋律をつくることは、なかなか発想を得られない児童も、ペアの友達の表現から発想を得たり、相談したりできるなど、対話的な学びに大変有効であった。